令和２年　予算特別委員会6日目【土木費】

↓↓↓質疑応答↓↓↓

【松澤質問】

　私からは、３１１ページ、無電柱化推進事業、３２４ページ、公園管理費、３４１ページ、防災関係組織経費、３４３ページ、消防団運営費、３４７ページ、備蓄物資購入、３４７ページ、避難所管理費について、順不同で質問いたします。

　まずは、備蓄物資購入についてです。新型コロナウイルス感染症によりますマスクの買い求めが起こりまして、混乱が生じました。早々に呼吸器に障害・疾患のある区民からの相談で、「マスクが買えず困っている」「病院からもなくなりつつあり、不安です」「区で備蓄しているマスクを配ってもらえないか」という要望でした。

　要望をいただいた当時、すぐに相談いたしました。国や東京都の情勢を見ないと動けないというお話で、東京都にも問い合わせをしましたが、各所に備蓄しているので難しいとの回答がありました。

　備蓄マスクについては、岡山県をはじめ、たくさんの自治体では、医療関係、妊婦とその家族に向け無料配布し、高崎市では、小学校に無料配布する際、学校薬剤師として登録しています地域薬剤師が学校にてマスクのつけ方や感染症予防を指導し、タイミングは各家庭の判断としておりました。たくさんの対応事例がある中、どの自治体も共通して声を上げているのは、防災設備、備蓄というものは、いざというときに使うものですが、今がそのときだと住民の健康を第一に捉え、行動しておりました。

　品川区における備蓄マスクは、１１万枚余だとご答弁でわかりましたが、備蓄品の活用の定義を教えてください。

　また、この備蓄マスクの配布について、どのように考えていますでしょうか。

【中島防災課長答弁】

　災害時の備蓄品、マスク等の備蓄と活用の考え方というご質問だと思います。

　まず、災害対策用で１１万枚余のマスクを備蓄しているところについては、あくまで地震や風水害などの災害時に区民避難所での感染症対策で使用することを目的として備蓄しているところでございます。

　ただ、委員ご指摘のとおり、今回の新型コロナウイルス感染症のような場合では、やはり平常時とは違う対応が求められるところでございます。基本的な考え方といたしましては、まず、災害対策用ではない備蓄品を使用して、その後、感染状況や備蓄の状況等を勘案しまして、いざというときに備えて一定量を確保しつつ、災害の備蓄物資を使用していくことを考えております。

【松澤質問】

　政府は、国が備蓄するマスクが、７４３万枚余あると報告しました。マスクが不足している医療機関が出ており、極めて重要性の高いところに出せるか検討するとあり、ようやく動き出すものと思われます。

　先ほど、課長のご答弁がありましたが、ぜひ品川区でも積極的に活用していただくよう要望しまして、次の質問に移ります。

　次は、無電柱化推進事業です。昨年度、さまざまな災害により、大規模停電による混乱が全国で起こり、政府も１月にまとめた中間検証報告書に無電柱化の推進を盛り込んでおります。

　ただ、工費や工期がかさむ難点があり、電柱も増え続けている中、現在のペースでは、完全な無電柱化には１５００年かかるとも言われております。

　なぜ電線大国になったのか。戦後、早く復興を進めるためには、安定した電力の供給が重要となり、コスト、時間のかかる地中ではなく、安く、速く設備できる電柱が選ばれ、高度成長とともに増えていったとあります。

　しかし、昨今起こる災害により、電柱の倒壊や大規模停電など、混乱が起こる今、無電柱化は喫緊の課題ではないでしょうか。

　そこで、品川区での区道における、現在の無電柱化率と、完全な無電柱化に向けて、何年を見越した計画があるのか、ご見解をお聞かせください。

【多並道路課長答弁】

　私からは無電柱化推進事業についてお答えさせていただきます。

　まず、区道の無電柱化率につきましては、現在、約７.１％となっております。

　今後の進め方につきましては、現在、品川区無電柱化推進計画の策定に向けて。この計画は１０年間の整備計画ということで定める計画としております。この中では、まず、優先的に整備を進めるべき路線として、現在４路線を挙げさせていただいて、こちらについて進めていく予定としております。

　ただ、今後の無電柱化につきましては、現在、技術的な革新、新たな技術が出てきている関係と、国、また都でも新たな制度が検討されているような流れもありますので、このような状況をよく踏まえながら、この１０年の間に、また新たなものが出れば、適宜見直しながら、優先であるところも含めて進めていこうということで、現在のところは考えてございます。

【松澤質問】

　先ほど、課長の答弁から出ました、無電柱化推進計画素案がまとまったというお話です。

　実は、今日、３月１２日まで、区民の皆様へ意見をいただいておりますが、今現在、何件ほど、どのような意見があるのか、お聞かせください。

　それと、無電柱化推進計画素案の中で基本方針が打ち出され、計画が進められると思いますが、木密地域避難経路であります、防災生活道路の無電柱化が急務と思いますが、ご所見をお伺いいたします。

【多並道路課長答弁】

　まず、今、無電柱化推進計画の素案につきましては、パブリックコメントを２月１２日から行っております。委員のご指摘のとおり、今日までです。それで、昨日までの集計ですけれども、６件のご意見がありました。６件とも、無電柱化を推進してほしいという内容のご意見でした。

　具体的には、高齢者の方が電柱があると歩きにくいのでなくしてほしいなど、全体的なお話であったり、あとは、ご自分の家の窓から電線が見えるのが嫌なので電柱をなくしてほしいなど、さまざまなご意見の形で今いただいているところでございます。これについては、無電柱化推進計画本案を作成する際の参考とさせていただきたいと思っております。

　あと、木密地域における無電柱化につきましては、先ほどお示しさせていただいた無電柱化推進計画の素案の中でも、４路線を示させていただいておりまして、その中の２路線については、広域避難場所であります戸越公園一帯への避難路２路線ということで、今回も挙げさせていただいております。

　今、委員からご指摘がありましたように、やはり防災対策の避難路というのは大きな課題でもありますので、区としても同じような考え方で進めているところでございます。

【松澤質問】

　戸越公園の避難路、そのような避難する道に対しての早急な対応、ありがとうございます。

　しかし、無電柱化率は、先ほど７.１％というお話がありました。進まない要因として、莫大なコスト。１ｋｍの範囲を無電柱化するのに、５億円以上の費用がかかります。また、地下にはいろいろな配管が張りめぐらされており、私も建築の仕事の経験上、図面と全く違う場所に配管があったり、管理者のわからない不明管というものも存在いたしました。東京の地下は世界一複雑とも言われております。

　そこで、浅層埋設方式。これは、管路を従来より浅く掘る方法です。小型ボックス活用埋設、直接埋設方式など、低コスト化に向けた手法がいろいろと考えられますが、品川区として、低コスト化に向けたご見解をお聞かせください。

【多並道路課長答弁】

　無電柱化推進計画の素案の中でも、今、委員からご指摘いただいた浅層埋設、浅く管を埋める件であったり、また、小型ボックス化については、状況に応じてそういった手法を取り入れていくということで記載させていただいております。

　実際に戸越銀座商店街、旧東海道で無電柱化整備をする際には、狭い道路の有効性があるということで、この小型ボックスの手法を使っております。

　このように、現場、現場によって、いろいろ組み合わせながら、狭い区道においても無電柱化がしっかりできるように、これについては、今後の設計、工事の中で検討しながら進めていきたいと思っているところでございます。

【松澤質問】

　低コストの埋設方法もいろいろな課題がありますので、場所によっていろいろな検討が必要となります。しっかりと協議していただき、活路を見出していただきたく、引き続きお願いし、次の質問へ移らせていただきます。

　次に、公園児童遊園費についてお伺いいたします。近年、厳しい経済状況に加え、高齢化、少子化、核家族化が進む中で、孤独感、不安感にさいなまれ、精神的ストレスによる健康被害が社会問題となっております。こうした中、ペット飼育は癒やしを与え、精神的な安定感を取り戻すとともに、健康維持、促進を促す、社会生活の安定に大きく寄与するものと注目を浴びております。

　ペットとの共生社会がどんどん進む中において、安心して遊ばせることができる公園や施設がありません。今現在、品川区の公園において、犬を連れて散歩ができる公園は何か所あるでしょうか。

【溝口公園課長答弁】

　それでは、私から犬を連れて散歩ができる公園についてお答えさせていただきます。

　区内には、２６８か所の公園がありますが、リードをつけて犬が散歩することが可能な公園は、２０か所を指定しているところでございます。

　これは、やはりさまざまな犬を飼われている方、または一般の利用者、それぞれの立場で相反する意見も寄せられている中で、一定の基準を定め、面積が１,５００ｍ２以上や、子どもたちが遊んでいる場所や遊戯しているゾーンから十分な離隔をとれる、そういった条件を考慮して、また、公園それぞれの地域特性等も考慮しながら総合的に判断して、現在２０か所の公園において犬の散歩を認めているところでございます。

【松澤質問】

　最近の研究では、ペットを飼育することによる人への精神的不安感の軽減効果が認められたほか、高齢者がペットをなでることで高血圧が改善したり、衰えた身体機能のリハビリに役に立つとの報告もあります。

　これを受け、医療現場にペットを取り入れるアニマルセラピーや、保護施設にいる犬、猫の面倒を受刑者が見る更生プログラムなどが全米で広がりを見せており、ペットを通じて交流を図り、新たな生きがいづくりや地域社会への潤滑油としてのメリットははかり知れないと思っております。

　そこで、ドッグランの設置の考えや、動物との共生社会の考えを教えてください。

【溝口公園課長答弁】

　それでは、まず、ドッグランの設置についてでございます。品川区内におきましては、都立大井ふ頭中央海浜公園にドッグランが設置されているところでございます。

　やはり大規模な公園に一定の広さを占有する形での設置になりますので、なかなか区内の公園では、同じような形でのドッグランの設置は難しいと考えているところでございます。

　ただ、先ほどお話しさせていただきましたが、一部の公園にはなりますが、犬の散歩というのも認めている公園もあります。また、利用者のマナー向上などといったソフト対策として、犬の飼い主を対象としたマナー講習会といったものにも、これまで取り組んできたところでございます。

　犬をお飼いになっている方が増えているというのは実感しているところでございます。そうした中、ただ、一般の公園利用者の方もおりますので、そうした方たちが、ともに公園を気持ちよく使っていただけるようなソフト対策も一緒に進めながら、今後もお互いに理解をしていただきながら、公園を利用していただけるように取り組んでいきたい。そのように考えているところでございます。

【松澤質問】

　やはり私もドッグランといったものをつくるのには大変な努力と地域の相互理解が確かに必要だと思っております。ですので、まずは、香川県が行っている動物愛護管理推進計画や、世田谷区の人と動物との調和のとれた共生に関する条例、その他京都市、神戸市などの各自治体でも動物との共生に向けた条例が増えております。

　まずは、こういった条例づくりから入ることが、今後のドッグランもそうですが、動物との共生社会に向けて大切な一歩かと考えております。款が違うので、質問ではなく、動物との共生社会が整う品川区を要望しまして、次の質問へ移らせていただきます。

　次に、避難所管理についてです。一般質問でもご答弁をいただきました。風水害に対する対応も、各避難所連絡会議において重要なことではと、ほかの委員からも質問がありまして、今年度の予算の中で、新規に風水害に対する予算が盛り込まれておりました。

　そこで、お聞きいたします。この新規計上になります、風水害に対する予算は、どのような活動に充てられるものなのでしょうか。

【中島防災課長答弁】

　昨年の台風第１５号、台風第１９号などの大型台風の教訓等を踏まえまして、課題などがさまざまあったところですけれども、やはり地域の方の避難について、声としても多くございました。その中で、風水害、台風等に対する避難、区民の方の安全を確保した避難とはどのようなものかというところを検討したいと思っております。そのための検討委託を今年度、計上させていただいたところでございます。

　その中で、避難体制の見直し案や望ましい避難体制を検討して、来年度の台風対応等につなげてまいりたいと思っております。

　また、その他、関連して、例えば、風水害で自宅が損壊した場合などに長期の避難生活をする際、パーテーションや簡易ベッド、あるいは長期の停電に備えて非常用発電機、持ち運びできる発電機の追加配備等を風水害対応の一環で取り組んでいきたいと思っております。

【松澤質問】

　町会・自治会によっては、風水害時に自分たちで避難所を開設するという防災意識の高いところもあります。設備品、そういったパーテーション、簡易ベッド、発電機の購入も確かに大切なことなのですけれども、風水害において、防災意識の高い町会・自治会に向けて、避難所運営マニュアルを地域とともに協議し、見直し、防災意識の確認をすることが最優先ではないかなと思いますが、ご所見をお伺いいたします。

【中島防災課長答弁】

　風水害に関しましては、基本的に避難所というよりも避難場所という考え方の中で、区の職員が開設、運営するということで、これまでも行ってきたところでございます。

　そのような考え方を基本といたしまして、あと、地域の方々とどのような連携ができるかというところは、今後、避難対策の検討の中でも、さまざまな考え方が出てくると思いますので、そのような地域との連携ということも念頭に入れて、どこまでできるかわからないですけれども、考えていきたいと思っております。

【松澤質問】

　では、引き続きご検討いただきたく、次の質問に移らせていただきます。

　防災関係組織経費、消防団運営費を一緒に質問させていただきます。昨日は、東日本大震災から９年目にあたり、追悼式典などは新型コロナウイルス感染症の影響で縮小となりましたが、忘れてはいけない教訓として、改めて防災について考えていかなければならないと感じ、活躍した消防団や町会の区民消火隊、ミニポンプ隊についてお聞きいたします。

　まずは、品川区における区民消火隊、ミニポンプ隊の配置状況、また、Ｃ級ポンプ、Ｄ級ポンプの配備状況を教えてください。

【大森災害対策担当課長答弁】

　私からは、区民消火隊、ミニポンプ隊の配置状況等についてお答えいたします。

　本年１月末現在でございますが、６６隊の区民消火隊、１８４隊のミニポンプ隊が結成されているところでございます。

　続きまして、Ｃ級ポンプ、Ｄ級ポンプの配置状況でございますが、Ｃ級ポンプにつきましては、６６隊の区民消火隊にそれぞれ１基、Ｄ級ポンプにつきましても、１８４隊のミニポンプ隊にそれぞれ１基、計２５０基を配置しております。

　そのほかに、区民避難所でございます小学校、中学校、義務教育学校の４６校にＤ級ポンプを配置しているものでございます。

【松澤質問】

　６６の区民消火隊、１８４のミニポンプ隊といいますと、たしか町会が２０４ありますので、まだまだ配備が遅れている、配置が足りていないのが数でわかりました。

　それに関連しまして、荏原消防団管轄では、地域を７つに分け、７個分団で活動しており、地域の防災リーダーとして活躍が注目される中、積載車の導入や新しい資機材の配備など、災害時における活躍が期待される中、実は第三分団、第四分団には消防団の本部施設がありません。この２個分団は、木密地域を抱える重大な分団となり、しつこいお願いになってしまいますが、その後、土地の誘致、東京都の話がどうなったのか、教えてください。

【大森災害対策担当課長答弁】

　区といたしましては、区有地を活用しまして、これまでも東京都の消防団の格納庫整備に協力しているところでございます。今後も引き続き協力いたします。